# 第 57 回入学式　校長の言葉

神奈川県立　生田高等学校長　野田　麻由美

ただいま　入学を許可いたしました 358 名の新入生の皆さんを迎え、本日ここに、神奈川県立生田高等学校　第 57 回入学式を迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長した我が子の姿を、さぞ頼もしく感じていらっしゃることでしょう。心からお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。　皆さんは生田高校 57 期生として、今日、高校生としての日々を歩み始めます。これまでとは違った環境、更に広がりをもつ学習や人間関係など様々な「新しい生活」に期待し胸を膨らませていることでしょう。高校の生活は皆さんが一人の成人となり、社会へつながる道です。社会につながる出口は一つではありません。この道をどこに向かってどう歩くのか、個人の一つひとつの判断、決断で無限の可能性があります。そしてその進む道に正解はありません。

今、私たちが生きる社会は人工知能（ＡＩ）の急速な進化とそれに伴う、人間生活の急激な変容が起きています。ＡＩは保存・出力できる情報量、大量のデータを一度に正確に処理する能力や計算スピード、大量のデータを分析してそこから類推する能力の面で人間の能力をはるかに凌いでいます。しかし、ＡＩは万能ではありません。他者の感情の理解やそれに応じた感情の表出、目的を示すこと、イレギュラーな場面における臨機応変な対応、創造性が求められる分野は得意ではありません。ＡＩは過去のデータをもとに学習しているからです。ですから、これまで誰も思いつかなかったような革新的なアイデア、ゼロからまったく新しいものを発想する想像力（イマジネーション）、新しいものを作り上げる創造性（クリエイティビティ）は人間に与えられている素晴らしい力だということができます。

相対性理論で有名な理論物理学者アルベルト・アインシュタインは「想像力は知識よりも大切だ。知識には限界がある。想像力は、世界を包み込む。」という言葉を残しています。知識は既存の情報に基づくが、想像力は未来を切り拓く力をもっているという意味です。アインシュタインは固定概念に囚われず新たな発見を生む力として、想像力（イメージ）の重要性を強調しました。

想像力とは目の前にない、目には見えないものを思い浮かべる能力です。形のない未来を思い描く力です。まだどこにもない、ゼロの状態のものを思い浮かべることができて、はじめてその実現を目標にでき、具体的な取組もできるのです。

今は形がない、ずっと先の未来に自分がどうなりたいか。どんな社会を作りたいか。人間の持つ素晴らしい能力である想像力を発揮して、この３年間を使って思い描いてください。そして、その実現に向けて目標を定め、目的を持った行動をとってください。皆さんの未来は誰かが決めた結果ではありません。自分が思い描いた未来を形にしようと具体的にとった行動の結果が未来の皆さんの姿です。皆さん一人ひとりの生田高校での学びが意義あるものとなることを期待して

います。

「生まれる」「生きる」の生の字を冠した生田高校に入学した皆さんに言葉を送ります。

古典の和歌などに使われる言葉に「名にし負はば・・・」という表現があります。古典の伊勢物語の中で在原業平の有名な和歌で「名にし負はばいざ言問はむ都鳥、わが思ふ人はありやなしやと」に使われる「名にし負はば」です。和歌の意味は「都鳥という名前であるならば、当然都のことを知っているでしょう、だから尋ねます・・」「名にし負はば」とは「---という名を持っているのであれば　当然----でしょう」という意味です。名前には意味があり、それは力を持ちます。

では「生」という漢字を冠した生田高校は・・・、生田高校の生徒であれば、「名にし負はば・・」当然何であることが期待されるか。

「生」という漢字は、草木が生じて、次第に土の上に出てくる様子から出来た漢字です。生まれ、生み出して、自分の力で上から覆いかぶさる土を突き破って外に出て、力強く成長するという意味です。

皆さんには「生田高校の生徒である自分は、こんなことを新しく生み出して、自分の力で力強く成長させている、成長している」と言える何かをつかんで欲しいと思います。生み出し、成長させるものは、高校に入って新しく学んだ分野の勉強でもいい、部活動でもいい、探究活動で疑問を持ったことでもいい。今は形がない、目には見えないものを思い描く力である想像力を使って、将来の自分の姿や作りたい社会を思い描き、いろいろなことに知的好奇心を持って、自分の中に新しく芽生えた興味や能力の芽を成長させていると自信をもって言える生徒であって欲しいと思います。

「名にし負はば」この言葉を入学する皆さんに贈ります。